

# さくら



令和5年9月25日(月)

## 合唱コンクール・文化発表会に向けて



「さくら 第10号」で伝えた、芸能事務所を経営する教え子と連絡をとりあっています。その中で、互いの仕事の話をすることもあります。

彼女は経営者になる前は歌手でした。ですから、舞台づくりについて強い思いをもっています。事務所のタレントの舞台についても、細部までこだわりをもって取り組んでいます。事務所が主催する恒例のクリスマスディナーショーでは、観客に楽しんでもらうため、採算度外視のショーを企画し、多くの客から好評を得ています。そんな彼女のこだわりについて伝えます。

- 1 舞台に立つ者には、妥協を見せない稽古が必要である。芸事の世界には、これで完璧ということはない。稽古は一生涯である。
- 2 ひとつの舞台を創るのに、どれだけの人に関わっていることか。演者だけで舞台は成り立たない。舞台はさまざまなスタッフの尽力の結晶である。舞台、演者をささえる陰の力持ちに感謝。
- 3 自分がどのように演じるかは重要だ。それ以上に、お客様にどのように観ていただけるかはさらに重要。演者が一番ではなく、どこまでも謙虚でなければならない。
- 4 良い舞台は、演者とお客様で成立するもの。お客様とともに舞台をつくりあげるという意識が必要。

これらのことは、私たちの日常生活の教訓になるものがあります。皆さんの学校生活の教訓にもなるでしょう。

今週は合唱コンクールと文化発表会が行われます。仲間と協力しあい、舞台を創る者(演者と観客)と、それを観る者が一体となる素晴らしいものにしましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

